古墳群の展開　～関市小洞古墳群の調査成果から～

調査課　辻田　真穂

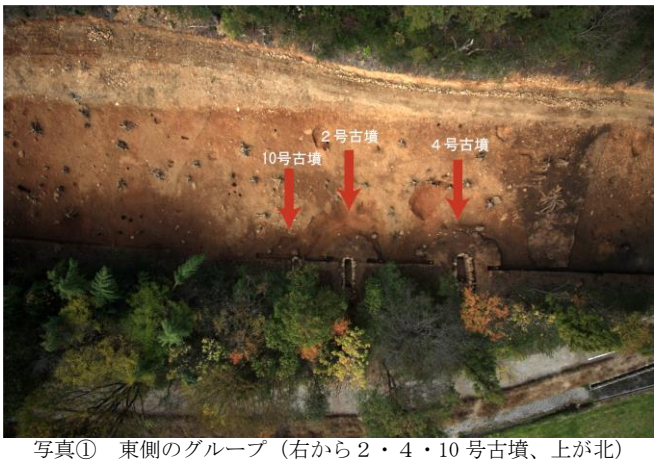
考古学コラム「きずな」NO.20
平成30年11月2日
岐阜県文化財保護センター

〈はじめに〉

昨年度、関市広見地内に所在する小洞古墳群の整理等作業を担当する機会を得ました。小洞古墳群は、東海環状自動車道の建設に伴って平成27年度に発掘調査を実施し、10基の円墳と、１基の土坑墓からなる６世紀後半から７世紀初頭に造営された古墳群であることが明らかになりました。今回はその調査成果の一部を報告します。

〈小洞古墳群にみられるグループ関係〉

古墳とは、古墳時代に土を盛って作られたお墓です。ある一定の地域の中に群をなして作られることもあり（古墳群）、古墳の大きさの違いや位置関係から、集団の構成や消長がわかる場合もあります。



写真①　東側のグループ（右から２・４・10号古墳、上が北）

小洞古墳群は丘陵裾の斜面に立地し、地形に沿ってほぼ横一列に並んでいます。古墳の大きさには、径８～10m程度の中規模墳と、径５m程度の小規模墳があります。

列の中央辺りには古墳のない空白地があり、古墳群の中で東と西の２つのグループに分かれていたと推測されます（図１）。それぞれのグループは、少なくとも中規模古墳３基と小規模古墳１基のほぼ同じ構成からなり、どちらのグループも先に中規模古墳、最後に小規模古墳を造っていたことが調査によって明らかになりました。これらの共通点から、小洞古墳群を営んだ集団は、対等な力関係にあった２つのグループからなる集団であったことが推測されます。

〈石室からみる大きさの違い〉

それぞれの古墳の内部には、横穴式石室という死者を埋葬するための部屋が設けられていました。（写真②・③）。

横穴式石室とは、死者を納めた棺を安置するための部屋（玄室）のうち、その部屋へ出入りするためのトンネル状の通路（羨道）を有している埋葬形態のことをいいます。通路があるため、後から何度か被葬者を埋葬する（追葬）ことを想定したつくりになっています。ここでは横穴式石室の大きさの違いに注目してみましょう。

写真②　４号古墳（南から）

写真③　９号古墳（南から）

中規模古墳である東グループの４号古墳と、小規模古墳である西グループの９号古墳の玄室の大きさを比べてみると、およそ５倍近くの差があります。４号古墳が 3.24m×1.52m、９号古墳が 1.62m×0.63mで、９号古墳は大人１人がぎりぎり埋葬できる程度で、追葬を想定したとは考えにくい大きさです。しかし、４号古墳の石室と同じ構法で丁寧に作られているほか、人が通れないような小規模な羨道が設けられていた痕跡も残っています。

古墳の大きさに違いがあるのはなぜでしょうか。小さな石室は、羨道のない竪穴式石室であることが多く、子ども用だとか、薄葬令によって次第に古墳が小型化したなどと考えられてきました。一方で、小洞古墳群の小さな石室は、中規模古墳の石室と同様の造り方がなされていることが特徴的です。本巣市の船来山古墳群に同じような事例があり、小洞古墳群のように古墳に大小の差があって、大きな古墳の石室ほど豪華な副葬品がたくさん納められていたことが分かっています。古墳の大きさは、埋葬された人物の身分の高さを目に見える形に示している可能性があると考えられます。

〈おわりに〉

古墳はさまざまな大きさのものが確認されており、一際目を引く大きなものは、現代の私たちが見ても圧倒されるような迫力があります。一方、小さな古墳が示す特徴は少ないように感じるかもしれませんが、全体を見渡してみると、古墳群を営んだ人たちの関係性が浮き彫りになって見えてくることがあります。

古墳群中で確認できる違いや共通点を探しながら、当時の人々がどのような思いで古墳を造ったのかを考えてみると、新たな発見があるかもしれません。

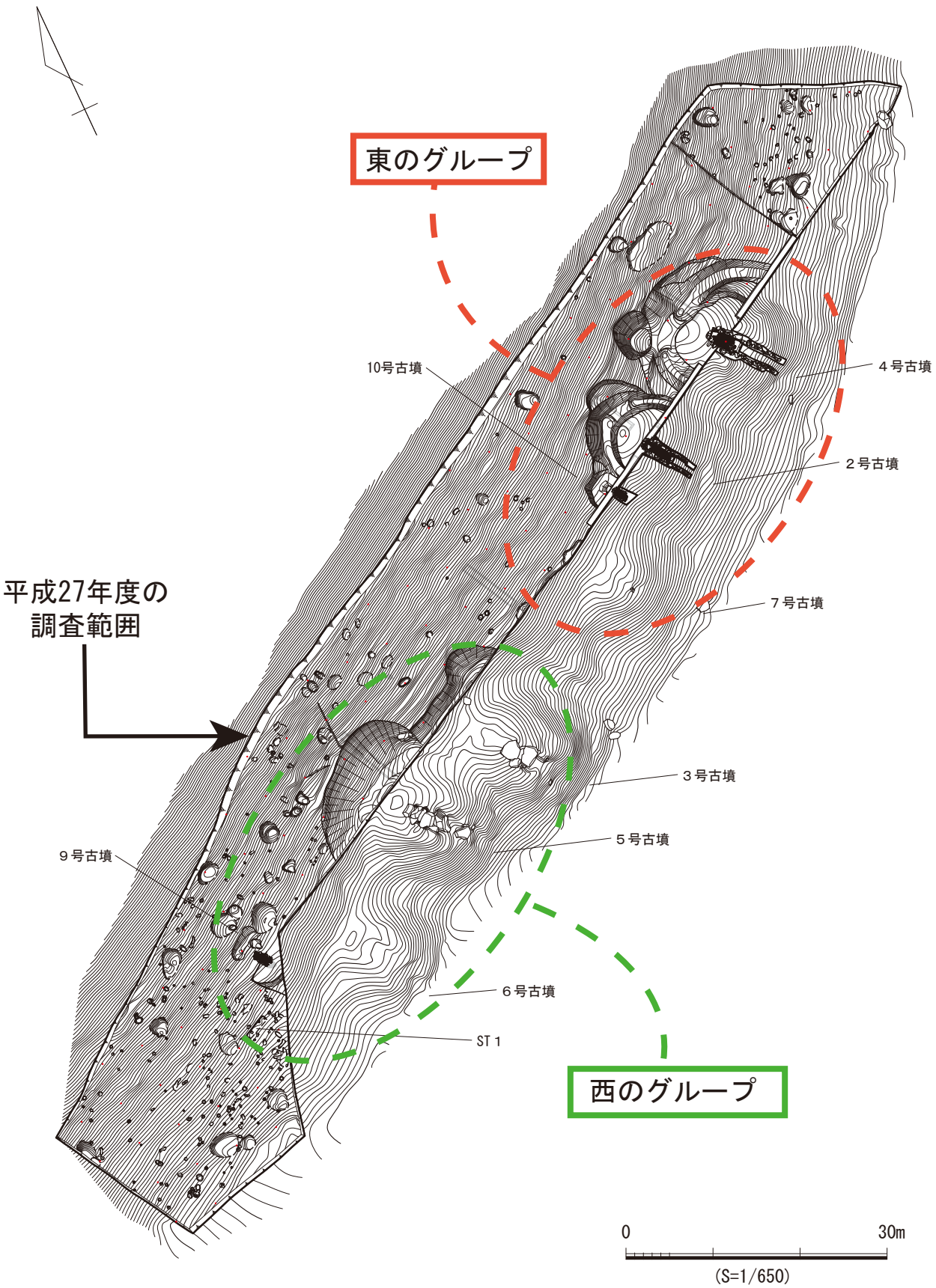


図１　小洞古墳群にみられる２つのグループ

〈用語解説〉

古墳群（こふんぐん）…ある一定の地域に、古墳がまとまって造られるようす。

横穴式石室（よこあなしきせきしつ）…古墳の中に設けられた、死者を納めるための石組の部屋。出入りができるように、通路（羨道・せんどう）が付いている。

追葬（ついそう）…石室に死者を納めたのち、同じ石室に別の人物を納めること。最初に葬られた人物に縁のある人物が追葬されたと考えられている。追葬の回数は１度とは限らない。

薄葬令（はくそうれい）…身分に応じて、古墳の大きさを縮小するよう定めたきまり。大化２（646）年に制定された。

副葬品（ふくそうひん）…死者にそえて墓に納められた品物。